

五ヶ丘まちづくりニュースレター



第5号



令和7年度 第2回五ヶ丘まちづくりワークショップを開催しました！

8月24日（日）に、令和7年度第2回「五ヶ丘まちづくりワークショップ」を益富交流館で開催し、27名の方にご参加いただきました。

五ヶ丘が目指す地域の姿を取りまとめることを目標に、第2回まちづくりワークショップでは五ヶ丘の「暮らし・交通」をテーマに、五ヶ丘が直面する困りごと・心配ごとは何か、その解決に向けて何が必要か、何ができるかについてみんなで意見交換しました。



五ヶ丘の新しいまちづくりのきっかけになることを期待していますので、楽しくやりましょう！

あいさつ

高橋支所の前田支所長から、改めてワークショップ開催の趣旨、参加者への期待について話をしました。



高橋支所長のあいさつ

①豊田市の「交通」に関する現状説明

交通政策課担当者から『豊田市の地域交通について（事例紹介）』と題するミニレクチャーを受けました。

「基幹交通」と「地域内交通」の関係、地域住民や企業等が協力し合って公共交通を補う「共助交通」の事例などを学びました。

第1回ワークショップ(7/19)の様子が市政番組「とよたNOW」で紹介されました。こちら市HPでご覧いただけます。
(※放送日：2025年7月22日（火曜日）2分20秒程度の番組です。)



※市HPでご覧いただけます。👉

②グループワーク 『五ヶ丘の将来を語ろう！～暮らし・交通編～』

5つのグループに分かれて、五ヶ丘の暮らし・交通について意見交換しました。



主な意見

- 若い人に五ヶ丘を選択してもらえるよう、魅力づくりが必要。
- 世代交流するならイベント事を増やすことも必要。ただし、自治区の負担にならない方法で。
- 高齢者の運転技術をみんなで磨き合うようなことができないか。その方が高齢者は生き生きと生活できる。
- 自動運転や「誤踏み」防止の技術は既にある。高齢者が免許返納しなくてもよいようにしたい。
- 公共交通を使う習慣、クセをつけることも必要。
- 共助交通についてもトライしてみてもいい。
- 宅配・通販も便利だけど…、集い交流することが大事である。
- 徒歩圏の暮らしを守り、見直すことを考えたい。
- 中心部のスーパーに魅力がない。五ヶ丘の中心部に食べる、飲める、楽しめる場をつくろう。
- 高齢化で自治区運営が大変になっている。草刈り、買い物、移動そして自治区運営も含めてサポート体制を考えよう。



③講評 お二人の専門家からコメントをいただきました。

◇牧野様（大正大学教授、東京大学名誉教授、五ヶ丘地区まちづくりアドバイザー）

- 住宅団地が高齢化や少子化の影響で「生活の場」へと変化しています。昼間も人がいることを前提として、団地内の生活機能や交通のあり方を見直す必要があります。
- 「15分都市」といって徒歩圏で生活が完結するまちづくりがヨーロッパでは注目されており、団地も地域の魅力を高める拠点として再構築されるべき時期に来ていると思います。



牧野様

◇山崎様（（公財）豊田市都市交通研究所 研究部長）

- 五ヶ丘内でもう少し生活が完結できるようにした方がよいという考えは私も同感です。センター街をもう少しにぎやかにすること、とても大事だと思います。



山崎様

④今後のワークショップについて

12月（第6回）までテーマを決めて、毎月ワークショップを開催します。参加を希望される方、ご興味のある方は、下記の連絡先へご連絡ください。

※ワークショップの内容や年間スケジュールは市HPでご覧いただけます。🏠

- ・第3回 9月28日（日）14:00～16:00 テーマ：五ヶ丘の「子育て・教育」
- ・第4回 10月26日（日）14:00～16:00 テーマ：五ヶ丘の「医療・福祉」



【発行】五ヶ丘自治区連合会、豊田市（高橋支所地域振興担当）令和7年8月

【連絡先】電話：80-0077、メールアドレス：takahashi-shisho@city.toyota.aichi.jp